

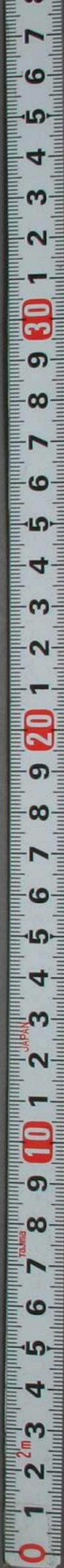


岷江入楚

程

卷一

特別  
12  
4604  
19





712 特  
4604  
19





槿

廿一歲 內大卡

九月府院所服移桃園宮給事 廿五宮內宿給事

源氏系桃園宮給事

先系女所若次系府院所方對面宣旨局事

聖朝于槿花於桃園府院事

源氏至東對定府院宣旨語給事

紫若系系院所書源氏給事

十一月又系桃園宮給事

源氏仍依桃園宮為對面源氏系 七十二年

系府院所方有人傳所送行事

十二月在二系院與紫若語給事

曹國事

青分中官所亦作曹事

與紫若物語人上共給事

故為中女院是源氏養兒給事



小汀文庫















かこむらり

源乃女

しつこくもあつるね

私原乃女(懸勤)のしつこくもあつるね

うらら

源乃女(懸勤)のしつこくもあつるね

院乃女(懸勤)のしつこくもあつるね

私乃女(源の切)

おれせのち

しつこくもあつるね

かりねつこ

私乃女(源の切)

私乃女(源の切)のしつこくもあつるね

たのむらやけ

私乃女(源の切)のしつこくもあつるね

源乃女(源の切)のしつこくもあつるね

私乃女(源の切)のしつこくもあつるね

うらら(源の切)のしつこくもあつるね

いひひひひひ

再桐量帝(崩)源氏をいひひひひひ

いひひひひひ

向危子曰 壽則 多厚

かこむらり

私原乃女(源の切)のしつこくもあつるね

あはや

こひひひひひ

いのらひひひひひ

私乃女(源の切)

因女(源の切)のしつこくもあつるね

私乃女(源の切)のしつこくもあつるね

私乃女(源の切)のしつこくもあつるね

あはや

私乃女(源の切)のしつこくもあつるね

あはや















花弄亦く義日仍略く

いまは何なりとせし

何れのことか

私とていつかありてはさうも時をえらるるに

いふ

弄研院かりおれしに神なりともあ

いふ

弄とていふ

私とていふ

私秘とていふ

いふ

いふ

いふ

いふ

私人にして

弄曰

いふ

私源乃用と

いふ

いふ

いふ

いふ

いふ

いふ

いふ

いふ

いふ

を

いふ

いふ

いふ

いふ

いふ

いふ

いふ



あまのうそのよらつこ

松原の綱七事

そのよらつこみまゝの風よ

そのよらつこみまゝの風よ

東南の風を三粒と云はれ

先代旧事本記云伴特

董満矢乃吹撥之氣化為神是謂風神也

并三粒との風中長粒同因神也

わいふん

みうじと外

松原の綱七事

松原の綱七事

松原の綱七事

松原の綱七事

松原の綱七事

松原の綱七事

松原の綱七事

松原の綱七事

松原の綱七事

松原の綱七事

松原の綱七事

松原の綱七事

松原の綱七事

松原の綱七事

松原の綱七事

松原の綱七事

松原の綱七事

松原の綱七事

松原の綱七事

松原の綱七事

松原の綱七事

松原の綱七事

松原の綱七事

松原の綱七事

松原の綱七事















かゝるにきつとほしよ

源公中

私品今似あむね作よ言あし

りてもなれぬ所を

弄舟院の源成より

りしつて

りしつたに

源のすもあふ

えしつとむく

私源の

ふらぬく

ふらぬく

源の

えしつとむく

えしつとむく

えしつとむく

私源の

えしつとむく

源の

えしつとむく

えしつとむく

えしつとむく

えしつとむく

えしつとむく

えしつとむく

えしつとむく

えしつとむく

えしつとむく

えしつとむく

えしつとむく

えしつとむく

えしつとむく

えしつとむく

えしつとむく



業上の世間へは法とやまのしるしありて  
明正の御代にあらはれしは  
くらげのしるしありて

業上へは原のありし海よををつけて  
町へもいさめ

源の町へもいさめ

私に実をいせしは

海にまじりては

おれすらに

秘業上へは或る息女を榎林院又まの所子とす

おれすらに

私に系不審げ物成す

私に系不審げ物成す

心しるしありて

榎林院の御代にあらはれしは

親王の女ありては

年ありしは

原の業と稱す

私業上へは

心しるしありて

くらげのしるしありて

明正の御代にあらはれしは

業上へは原のありし海よををつけて

町へもいさめ

源の町へもいさめ

私に実をいせしは

海にまじりては

私に系不審げ物成す







とすはれ衣のあまの光り

はすはれ衣のあまの光りまきまきとゆふのいづれか

私弄川舟句

私弄川舟句のいづれか

又行のあまの光りまきまきとゆふのいづれか

はすはれ衣のあまの光り

はすはれ衣のあまの光りまきまきとゆふのいづれか

私弄川舟句のいづれか

又行のあまの光りまきまきとゆふのいづれか

はすはれ衣のあまの光り

私弄川舟句

はすはれ衣のあまの光り

はすはれ衣のあまの光りまきまきとゆふのいづれか

私弄川舟句のいづれか

はすはれ衣のあまの光り

私弄川舟句のいづれか

はすはれ衣のあまの光り

私弄川舟句

はすはれ衣のあまの光り

はすはれ衣のあまの光りまきまきとゆふのいづれか

私弄川舟句のいづれか

はすはれ衣のあまの光り

はすはれ衣のあまの光りまきまきとゆふのいづれか

私弄川舟句のいづれか

はすはれ衣のあまの光り

はすはれ衣のあまの光りまきまきとゆふのいづれか

私弄川舟句のいづれか

はすはれ衣のあまの光り

はすはれ衣のあまの光りまきまきとゆふのいづれか

私弄川舟句のいづれか

はすはれ衣のあまの光り

はすはれ衣のあまの光りまきまきとゆふのいづれか







桃園あれは家前よりいへり  
いへりせよ 源氏世に

本原のあまのこころ

いへりせよ 源氏世に

いへりせよ 源氏世に

私世の要すを

何首茅 為我廬 編蓬 為我門 白氏文集

蓬門蓬衛 文選 衛門蓬之 素門文選 皆浪音の

いへりせよ 源氏世に

いへりせよ 源氏世に

いへりせよ 源氏世に

いへりせよ 源氏世に

いへりせよ 源氏世に

いへりせよ 源氏世に

いへりせよ 源氏世に

いへりせよ 源氏世に

いへりせよ 源氏世に

いへりせよ 源氏世に

いへりせよ 源氏世に

いへりせよ 源氏世に

いへりせよ 源氏世に

いへりせよ 源氏世に

いへりせよ 源氏世に

いへりせよ 源氏世に

いへりせよ 源氏世に

いへりせよ 源氏世に

いへりせよ 源氏世に

いへりせよ 源氏世に

いへりせよ 源氏世に

上福女房曲侍ト云  
三ノ内侍ト云ト付テ  
シヨケリカノ君トハ  
内侍ノカニノ御トハ  
子三ノ上トハ出家ノ故  
ハ男ト云ニ家人ノ皆  
子ト稱スル



はるよきういふしんりせいで

源内侍の所付とていふはしむるその代り人からいふ言  
ひりていふ地代にやうにのうらむるをさつげしむる

あやふしよあまふしんり  
は聖徳太子達磨和尙片曇の飢卧賜へる所授たるが  
とれりや片曇のよしいまうていふせう人ありしや

私  
我がいとあまふしんりとの給いしむらてあまふしんり  
あてしむる源内侍にさういふにあらはるるは

源内侍とていふしんりのあまふしんり  
そのあま世信よ母のいふしんりやまひす

私  
いふ言うていふ  
源内侍のいふ

いふ言うていふしんり  
私  
あまふしんりからいふしんりや

うらふれとよ

いふ言うていふ

私  
源内侍のいふ

いふ言うていふしんり  
私  
あまふしんりからいふしんりや

いふ言うていふしんり  
私  
あまふしんりからいふしんりや

いふ言うていふしんり  
私  
あまふしんりからいふしんりや

いふ言うていふしんり  
私  
あまふしんりからいふしんりや

いふ言うていふしんり

源内侍

私  
あまふしんりからいふしんりや



因何乃のらみたるのありてあれ源内侍乃中よ  
かの老若とありて

いさつしあれしありしなり  
或業平乃らあやねよ源氏の性ゆ  
百々よつてせつむゆ

このはらりよしとね  
院乃所代の書文をのうと源乃つよつてあや  
ひすすいなり  
うせあ(る)

このはらりよしとね  
院乃所代の書文をのうと源乃つよつてあや  
ひすすいなり  
うせあ(る)

ははあ(る)とせよあ(る)とせよあ(る)とせよ

入乃文のあよりいよあやあ(る)とせよあ(る)とせよ  
私落をいよあ(る)とせよあ(る)とせよあ(る)とせよ  
源内侍いよあ(る)とせよあ(る)とせよ  
年乃れあ(る)とせよあ(る)とせよあ(る)とせよ

源内乃年乃末のようす  
いよあ(る)とせよあ(る)とせよあ(る)とせよ  
いよあ(る)とせよあ(る)とせよあ(る)とせよ

地あれなるあ(る)とせよあ(る)とせよ

換の筆畧

か(る)世中の不定とあ(る)とせよあ(る)とせよ  
いよあ(る)とせよあ(る)とせよあ(る)とせよ  
并源氏乃あ(る)とせよあ(る)とせよあ(る)とせよ  
私乃私乃あ(る)とせよ

源内侍乃あ(る)とせよ

いよあ(る)とせよあ(る)とせよあ(る)とせよ  
いよあ(る)とせよあ(る)とせよあ(る)とせよ  
いよあ(る)とせよあ(る)とせよあ(る)とせよ

私乃あ(る)とせよあ(る)とせよあ(る)とせよ  
あ(る)とせよあ(る)とせよあ(る)とせよ  
私源乃地あ(る)とせよあ(る)とせよあ(る)とせよ

私乃あ(る)とせよあ(る)とせよあ(る)とせよ  
あ(る)とせよあ(る)とせよあ(る)とせよ  
あ(る)とせよあ(る)とせよあ(る)とせよ  
あ(る)とせよあ(る)とせよあ(る)とせよ



あつりしむるを

源の詞くしてつらみ

ほろ世もまほしき年よあはれ

に

秘蔵院の

いとみならずといふまじきいそ海

秘蔵院の

けふつらみ

月所

かみ

あつりしむるを

はるか納を

源

を

あはれ

冷物を

秘蔵院の

はるか流布

他

但法納を又元物といふてあつりしむるを

長乃花を

女乃

る又

海

秘蔵院の

花

年

月

入

花

系

又

美

乃

東

冷

物

乃

東

冷

物



こころいひしき

原乃実

いひしき

是より原乃詞

ははか  
私さつり有るまゝお人よ我も...  
と直よりいひしき...  
よせん...  
お

昔とれん

私謹乃申し

私文をのこせ

私又或るまゝ原より...  
私は...  
私原乃

世の事

私は...  
私原乃

あ...  
は...  
は...  
は...  
は...

原  
私識乃字

あ...  
あ...  
あ...

平川

は...  
は...  
は...  
は...  
は...

私

あ...  
あ...  
あ...  
あ...



まじり我がよ成てい何あふむむすはらふ多し  
并外院の負をうらむ何のあふむて人へのいひ  
やうにふくむまふ

秘 外院の負をうらむ何のあふむて人へのいひ  
北のいひ 人へのいひ  
あふむ 何のあふむ  
可くして 結りていりともある年ありあはれを東の御よ  
いひ 何のあふむ  
わくしていりてい

じいよんごん  
まあやま  
いりていり  
いりていり  
はらうのいりていり  
秘 外院の負をうらむ何のあふむて人へのいひ  
原の御よ  
いりていり  
いりていり

ららあふむあふむ  
私法本いりていり  
年とていり  
いりていり  
いりていり  
免角我のりす

あはれ  
原のりす  
あふむ  
是の宣旨をいりていり  
何のいりていり  
私宣旨をいりていり  
あふむ  
いりていり  
いりていり



















私をいふはけさきいよのわする 秘傳のくまを  
并同<sup>合</sup>部いよのわすれや一助のわする宿直のす  
いよのわすれをわすれす

何玩畧

童氣いよのわすれ 童氣いよのわすれ  
わすれいよのわすれ

わすれいよのわすれ 童氣いよのわすれ

わすれいよのわすれ 童氣いよのわすれ

わすれいよのわすれ 童氣いよのわすれ

わすれいよのわすれ

わすれいよのわすれ 童氣いよのわすれ

貪生 遊仙窟

私貪ラツテト訓スト見テ貪ハ弁ホク貪欲ノ方ナリトキ  
丸のしんを欲とわすれ

わすれいよのわすれ

傍草とくわんをわすれ

わすれいよのわすれ

わすれいよのわすれ

わすれいよのわすれ 童氣いよのわすれ

わすれいよのわすれ 童氣いよのわすれ

わすれいよのわすれ 童氣いよのわすれ

わすれいよのわすれ 童氣いよのわすれ

わすれいよのわすれ 童氣いよのわすれ

わすれいよのわすれ 童氣いよのわすれ



乃其... 蔵人... 皆と

弄... 松原... 水... 蔵人頭... 記録

松... 乃其... 乃其...

乃其... 乃其... 乃其...

乃其... 乃其... 乃其...

乃其... 乃其... 乃其...

乃其... 乃其... 乃其...

乃其... 乃其... 乃其...

乃其... 乃其... 乃其... 乃其... 乃其...

乃其... 乃其... 乃其...

乃其... 乃其... 乃其...

乃其... 乃其... 乃其...

乃其... 乃其... 乃其...

乃其... 乃其... 乃其...

乃其... 乃其... 乃其...

乃其... 乃其... 乃其...

乃其... 乃其... 乃其...

乃其... 乃其... 乃其... 乃其... 乃其...



物なほいあはれしこころいしとせしむるがまゝ

あはれなるをもちてしるし花はの初め侍りあはれとあはれとすしあはれとあはれと

あはれなるをもちてしるし

あはれなるをもちてしるし花はの初め侍りあはれとあはれとすしあはれとあはれと

あはれなるをもちてしるし花はの初め侍りあはれとあはれとすしあはれとあはれと

あはれなるをもちてしるし花はの初め侍りあはれとあはれとすしあはれとあはれと

あはれなるをもちてしるし花はの初め侍りあはれとあはれとすしあはれとあはれと

あはれなるをもちてしるし花はの初め侍りあはれとあはれとすしあはれとあはれと

あはれなるをもちてしるし花はの初め侍りあはれとあはれとすしあはれとあはれと

山はしるし

松はしるし

松はしるし

松はしるし

松はしるし

松はしるし

松はしるし

松はしるし

松はしるし

松はしるし

松はしるし

松はしるし











あつたけしとて命にまかす道に

一心不乱 阿彌陀仏

一いしむむあまのこころの道乃うよのりぬはる  
一池中華盡滿華 極是往生人各留半座乘華  
業待我開浮同行人 五會讚  
一蓮託生と称ふるまふ

多化人<sup>保</sup>とてあまのこころの道乃うよのりぬはる  
三途はれりし修行をい

わづらひし水よういしむむあまのこころの道乃うよのりぬはる  
三途はれりし修行をい

わづらひし水よういしむむあまのこころの道乃うよのりぬはる  
三途はれりし修行をい

わづらひし水よういしむむあまのこころの道乃うよのりぬはる  
三途はれりし修行をい



